危機管理連絡会議

日時：令和４年５月２１日（土）午後６時
場所：県庁３階特別会議室

協議事項

○　マダニによる「重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）」等の感染予防について

危機管理連絡会議　配席図

令和4年5月21日（土）18:00～

報道機関

危機管理環境部
次長

危機管理環境部
副部長

感染症対策課長

県警本部警備部
警備課 災害対策官

教育委員会
教育政策課 副課長

病院局　総務課
副課長

企業局
経営企画戦略課
副課長

西部総合県民局
地域創生観光部次長

南部総合県民局
地域創生防災部次長

県土整備政策課
副課長

危機管理政策課
課長

危機管理政策課
副課長

総合政策課
副課長

総務課
副課長

未来創生政策課
副課長

保健福祉政策課
副課長

商工政策課
副課長

農林水産政策課
副課長

出入口

事務局

資料提供			
月日（曜日）	担当課	電話番号	担当者
令和４年５月21日(土)	感染症対策課	088-621-2228	梅田・山本

マダニによる「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」等の感染予防について

県内において、今年に入り初めて、重症熱性血小板減少症候群（SFTS)患者１名の発生が確認されました。

「重症熱性血小板減少症候群（SFTS)」は、SFTS ウイルスを保有するマダニに刺咬されることで感染するとされており、発症すると重症化することもあるため注意が必要です。

なお、マダニは、春から秋（３月から１１月頃）にかけてが活動期であり、今後も患者発生の可能性があることから、県民の皆様に対し、広く注意喚起を行うものです。

【今回の SFTS 患者の状況】

1　患　者：徳島市在住の７０歳代女性
2　主な症状等：発熱、消化器症状、白血球・血小板減少等
3　感染原因（推定）：屋外でのマダニによる刺咬
4　ダニによる刺し口：刺し口あり
5　経過等：令和４年５月 15 日に発熱、5 月 16 日に食欲不振、下痢があり、医療機関を受診。
医療機関から徳島保健所に行政検査の依頼があり、保健製薬環境センターでの確定検査により、「SFTS ウイルス」に感染していたことが確認された。
現在、入院加療中。

【予防方法】

マダニに咬まれないことが重要です。

1　草むらや山など、マダニが生息する場所に入る際は、長袖・長ズボン、手袋、首にタオルを巻くなど肌の露出を避けましょう。
2　屋外活動後は入浴しマダニが付着していないか確認しましょう。
3　マダニに咬まれた場合は、無理に引き抜こうとせず、医療機関で処置してもらってください。
4　マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、直ちに医療機関を受診しましょう。
5　SFTS を含む動物由来感染症の感染を防ぐため、ペットとの過剰なふれあいを控えてください。
6　野生動物は、どのような病原体を保有しているかわからないので、野生動物との接触は避けましょう。

※　なお、マダニによる刺咬は、SFTS 以外にも日本紅斑熱などの複数の感染症を引き起こします。春から秋にかけてマダニに咬まれないように注意してください。

徳島県では、県ホームページへの掲載、また、関係機関や市町村に対してリーフレットを作成し配付することにより、マダニによる感染予防を呼びかけています。

【参考：近年の発生状況】

		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
全国	感染者数	61	60	60	90	77	102	75	68
	うち死亡者数	16	11	8	8	4	5	5	5
徳島県	感染者数	7	3	8	4	1	9	0	3
	うち死亡者数	2	1	2	1	0	1	0	1

※全国の発生状況については 2021 年 7 月 28 日現在

【当感染症発生時の発表取扱い】

SFTS は、四類感染症に分類されており、通常は県感染症情報センターから届出数等の公表を行っておりますが、今回は、県民の皆様への注意喚起等「感染対策上の必要性」から、特に個別発表を行うものであります。患者等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、特定されることがないよう、格段の御配慮をお願いします。

マダニが媒介する新しい感染症

SFTS（重症熱性血小板減少症候群）

早期発見、早期治療が大切！！

タカサゴキララマダニ

問1：SFTSってどんな病気？

2011年に初めて特定されたSFTSウイルスに感染する事で起こる病気で、6日～2週間の潜伏期を経て、**発熱、消化器症状**（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）で発症します。重症化すれば、死亡することもあります。

問2：どのように感染するの？

SFTSウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染します。
マダニの中でも、ウイルスを保有しているマダニは極めてまれですが、発病すると重症化することもあるので十分気をつけましょう。この病気を媒介するマダニは、家ダニなどとは違う種類で、10mmほどの主に野山に生息しているマダニです。

問3：どのように予防すればいいの？

マダニに咬まれないことが重要です。草むらや山など、ダニが生息する場所に行く場合には、長袖・長ズボン・長靴、手袋、首にタオルを巻くなど、**肌の露出をできるだけ少なくする**ことが大切です。虫除けスプレーも一定の忌避効果が得られます。ペットなどの身近な動物にも気をつけましょう。
屋外活動後は入浴し、マダニが付着していないか注意深く全身チェックしましょう。

問4：もしマダニに咬まれたらどうしたらいいの？

マダニ類の多くは、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、数日間吸血します。無理に引き抜こうとすると、口器の一部が皮内に残ってしまうことがあるので、医療機関で処置してもらってください。**咬まれた後1～2週間は、発熱、嘔気、下痢などに注意しつつ、朝夕に体温を測り、裏面の体温表に記入し、熱が出たら直ぐに医療機関を受診しましょう。**

徳島県医学・感染症専門員　馬原　文彦先生監修

徳島県保健福祉部　感染症対策課

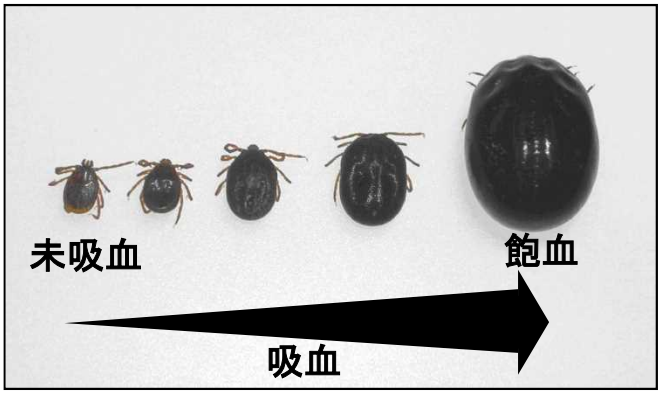
ダニに咬まれたら１週間くらい朝夕に熱を測りましょう

姓名									体重 kg					
ダニに刺された														
月　日	第　日		第　日		第　日		第　日		第　日		第　日		第　日	
	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕
体温														
40														
39														
38														
37														
36														
35														

ヒトを刺咬しているマダニ

腕を刺咬するマダニ

拡大写真：タカサゴキララマダニ



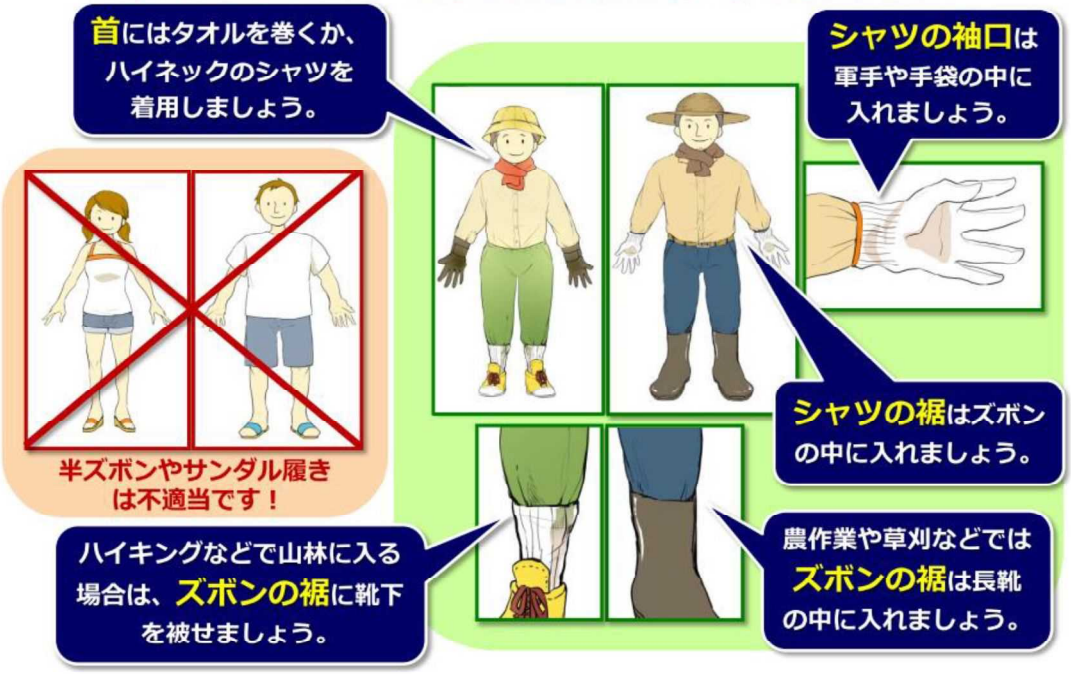
吸血すると3～15ミリ位に膨れる

（写真提供：馬原アカリ医学研究所）

1.　マダニの生息場所

2.　マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！



3. マダニから身を守る方法

上着や作業着は、家の中に持ち込まないようにしましょう。

屋外活動後は、**シャワーや入浴**で、ダニが付いていないかチェックしましょう。

ガムテープを使って服に付いたダニを取り除く方法も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間（10日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

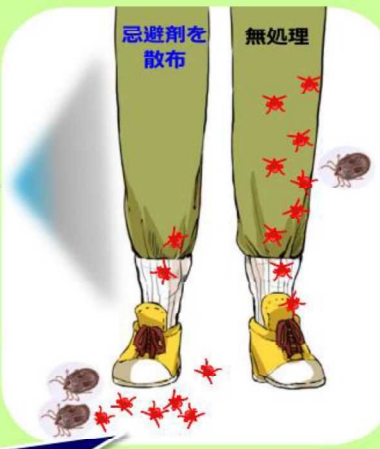
マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

4. 忌避剤の効果

海外ではマダニ対策に**忌避剤(虫よけ剤)**が使用されていますが、日本には、マダニ用に市販されている忌避剤は今のところありません。

日本では、ツツガムシ（ダニ目ツツガムシ科）を忌避する用途で、衣服に塗布して使用する忌避剤（医薬品）が複数市販されています。

このような忌避剤を使用し、**マダニに対して一定の忌避効果が得られる**ことが確認されました 。



ディート（忌避剤）の使用でマダニ付着数は減少しますが、マダニを完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。

出典：国立感染症研究所ホームページ
http://www.nih.go.jp/niid/ja/sfts/2287-ent/3964-madanitaisaku.html